

平成30年2月13日（火）「第4回 地域づくり小委員会」が開催されました。

■開催概要

「第4回 地域づくり小委員会」が平成30年2月13日(火)に釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室で開催されました。

小委員会には、25名（個人8名、団体10名、関係行政機関7機関）（一部兼任）が出席し、一般の方も傍聴されました。

議事では、はじめに、地域づくり小委員会の振り返りとして、小委員会の目標や第1～3回までの開催概要について事務局から説明が行われました。その後、委員から話題提供として、地域で行われている具体的な取組事例についての情報提供がされました。最後に、湿原保全と地域産業振興の両立を目指し、今後、小委員会で具体的な取組を実施するにあたり、その実施するテーマ及び取組内容についての議論が行われました。



▲第4回 地域づくり小委員会（平成30年2月13日）

■地域づくり小委員会とは

地域づくり小委員会は、地域産業と連携した湿原のワイズユースにより、湿原を保全・再生し、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進めるために設立されました。今後は、賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方と、湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について、議論を進めていく予定です。

1 第1～3回地域づくり小委員会の開催概要

事務局から地域づくり小委員会について説明がありました。

○地域づくり小委員会の目標

～地域産業と連携した湿原の「ワイズユース（賢明な利用）」により、釧路湿原を保全・再生することによって、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進める。

○4つの行為目標

- ・観光など地域振興による湿原の賢明な利用
- ・地元産業との連携の検討
- ・湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくり
- ・産業や暮らしにおける環境や景観への配慮

○3つの成果目標

- ・自然再生と地域産業・文化の振興の両立
- ・湿原利用のルール作り
- ・地域住民や来訪者における環境負荷軽減策の認知・定着

○これまでの地域づくり小委員会開催概要

2 今後議論したい内容について

『第2回地域づくり小委員会 アンケート結果』『第3回地域づくり小委員会 ワークショップ意見』を基に今後議論したい内容について意見交換・提案等が行われました。

○特定非営利活動法人美しい村・鶴居村観光協会からの話題提供 ～鶴居村における農泊の取組について

○竹中 康進 委員からの話題提供

～「海鳥を取りまく自然環境の保全」と「羽幌の地域産業の振興」の両立に向けて

○取組及びテーマについて

○今後の進め方について

○地域づくり小委員会の目標

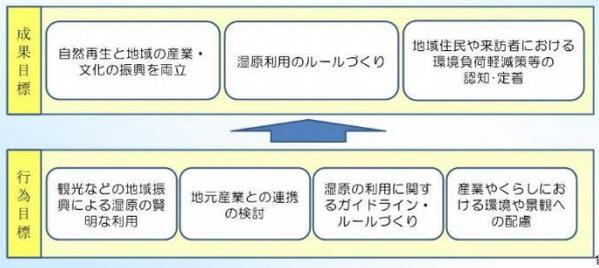
1. 地域づくり小委員会の目標

第1回地域づくり小委員会資料より

【目標達成に向けた施策】

～自然再生を通じた地域づくりの推進～

地域産業と連携した湿原の「ワイズユース（賢明な利用）」により、釧路湿原を保全・再生することによって、将来にわたり地域産業が豊かになる取組を進める。



○NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会からの話題提供



2 意見交換

委員からの話題提供及び意見交換・提案等が行われました。

議論された主な内容

●委員長 ●委員

- 鶴居村は、釧路湿原はじめ豊かな自然環境に恵まれ、フットパスやサイクルーツリズム、ハーブを使用した料理など、地域に根付いた観光コンテンツを構築しているが、観光客は「通過型・日帰り観光」が多いことが課題。
- 滞在型観光促進のため、「暮らすように旅をする」をテーマとしたモニターツアーを実施し、好評であった。ここならではの体験、地域の食、地元住民との交流、が必須と考える。
- 羽幌町にて「シーバードフレンドリー認証制度」を実現に向け検討中。自然環境に配慮した地域産業の取組や商品を認証し啓発することで、付加価値をつけるという内容。地域産業や環境保全に関わる団体や行政を集め、実現に向けたワーキングチームを立ち上げ、地域の現状、課題の解決、認証制度の将来像等について議論している。今後は、ワーキングチームから協議会に発展させると共に、来年度からは実際に認証を行い、過程から啓発までの課題の洗い出し、環境配慮の見える化などを行い、地元民に当該認証制度について知ってもらう。
- 地域産業と自然環境は深い関わりがあるため、自然の保全には暮らしに関わる人たちの協力が不可欠。自然環境の保全を行うことが各産業振興につながるということを示せば、地域産業を仕事としている人たちが「主体的に」環境保全に取り組んでもらえる。各々が考える社会問題に対し、環境保全がどう貢献していけるかが大事。
- 地域産業と保全体制の連携が大事であるため、地域産業や湿原保全に関わる団体等との対話、ヒアリングの機会を持つことが必要。湿原保全と地域産業を繋げる、コーディネートができる組織や人材の育成が必要であり、地域で継続的に自然再生事業をやってもらうためには、地元市町村の協力も不可欠。
- 釧路湿原がテーマになっているが、流域全体を考えると釧路川の役割を置き去りにしてはいけない。釧路川にシャケが戻ることで、地域再生の力になると考える。
- 各地域や団体で実施されている既存の取組を同じく行う必要はない。しかし、既存の取組に、当委員会の取組を+αすることは大事になってくる。コスト削減且つ取組の発展につながる。

～今後の地域づくり小委員会の進め方について～

- 行為目標である「観光」「産業連携」「ルール」の3つをテーマに、それぞれ「環境・景観」を配慮した取組について考えていくこととし、各委員が今後取り組んでいきたいテーマ及びその具体的な取組案等について、アンケート調査を行い、事務局で意見の取りまとめを行うこととする。
- 次回は各テーマの具体的な取組及び進め方、ワーキンググループの結成について議論する。

○竹中 康進 委員からの話題提供



第4回地域づくり小委員会【出席者名簿（敬省略、五十音順）】

個人【8名】

神田 房行 竹中 康進
木村 勲 照井 滋晴
櫻井 一隆 平岩 誠
佐野 修久 平岡 俊一

関係行政機関【7機関/7名（一部兼任）】

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所 【所長 渡邊 和好】
林野庁 北海道森林管理局
【釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 志村 賢二】
北海道 釧路総合振興局【環境生活課 自然環境係長 高橋 克巳】
釧路市【産業振興部観光振興室長 高橋 利和】
釧路町【経済部産業経済課商工観光係 係長 大中公史（釧路川流域町村観光推進協議会と兼任）】
弟子屈町【観光商工課観光振興係 主事補 花房 孝陽】
鶴居村【産業振興課 課長補佐 小原 利也】

団体【10団体/10名（一部兼任）】

釧路川カヌーネットワーク【会長 小川 清史】
釧路川流域町村観光推進協議会【事務局 大中公史（釧路町と兼任）】
釧路観光連盟【専務理事 夏堀 勝治】
釧路国際ウェットランドセンター【事務局長 菊地 義勝】
釧路湿原国立公園連絡協議会【事務局次長 元岡 直子】
釧路シャケの会【会長 小杉 和寛】
公益財団法人 北海道環境財団【事務局次長 久保田 学】
こどもエコクラブくしろ【近藤 一燈実】
特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会【服部 政人】
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ【井上 雅子】

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839